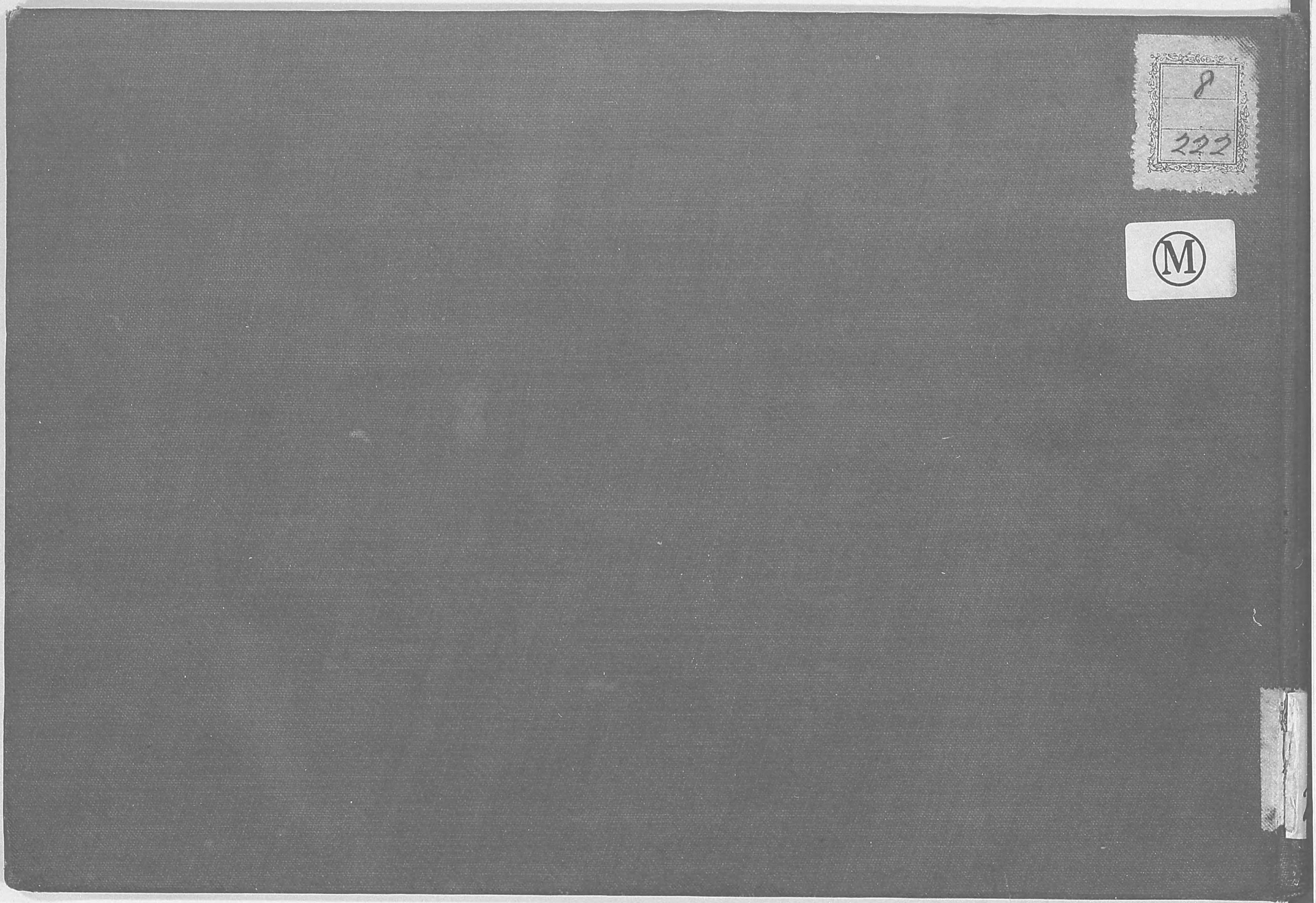


始





8
222

M





明治廿六年六月五日
旅之京土産陸之里下

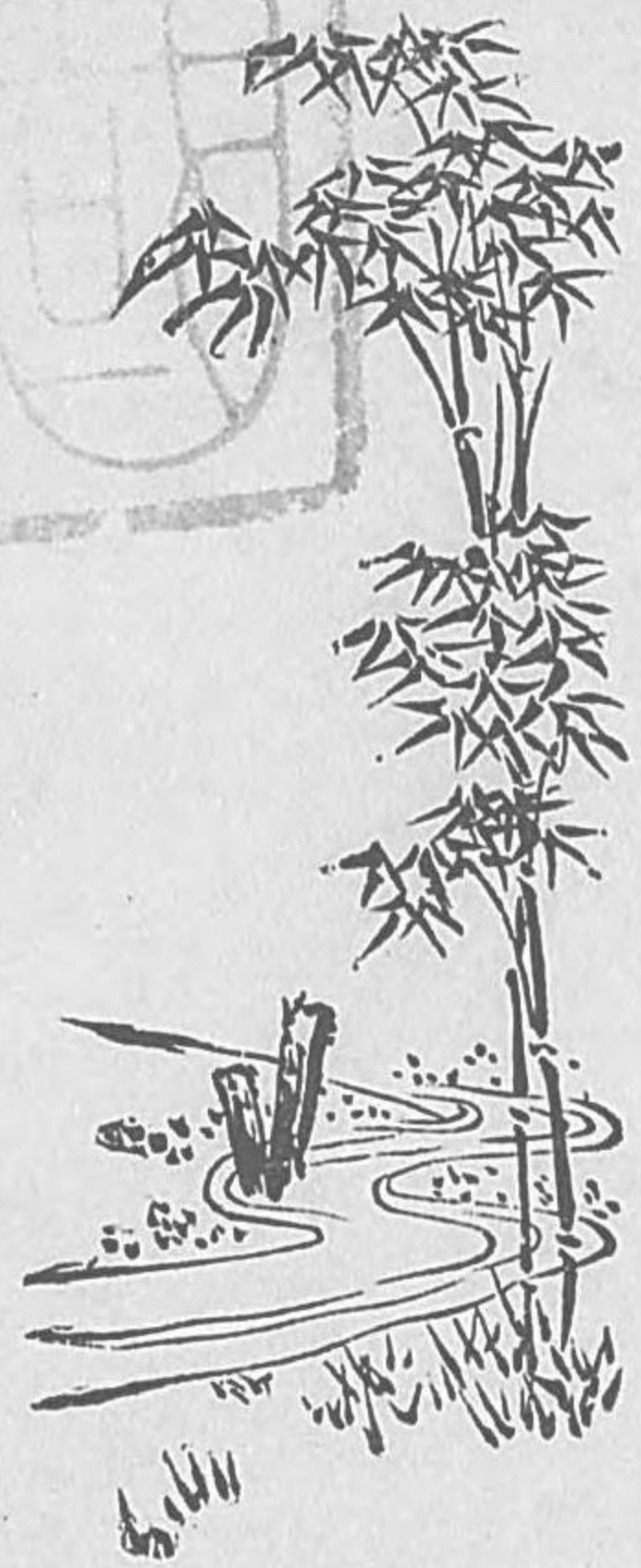
8
222

8
222

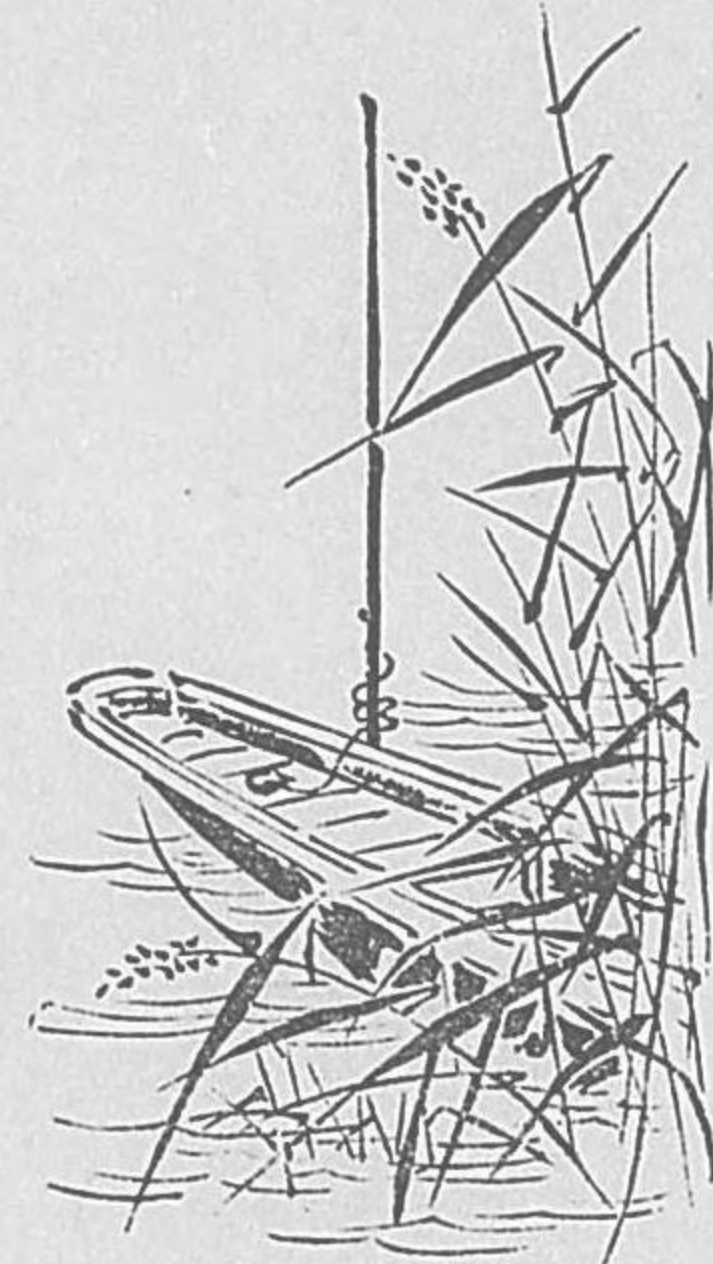


白河城

磐城の國にあり松平定信居城
さして有名なれども今や残壘
廢墟唯獨り南湖に其名を留む
るのみ

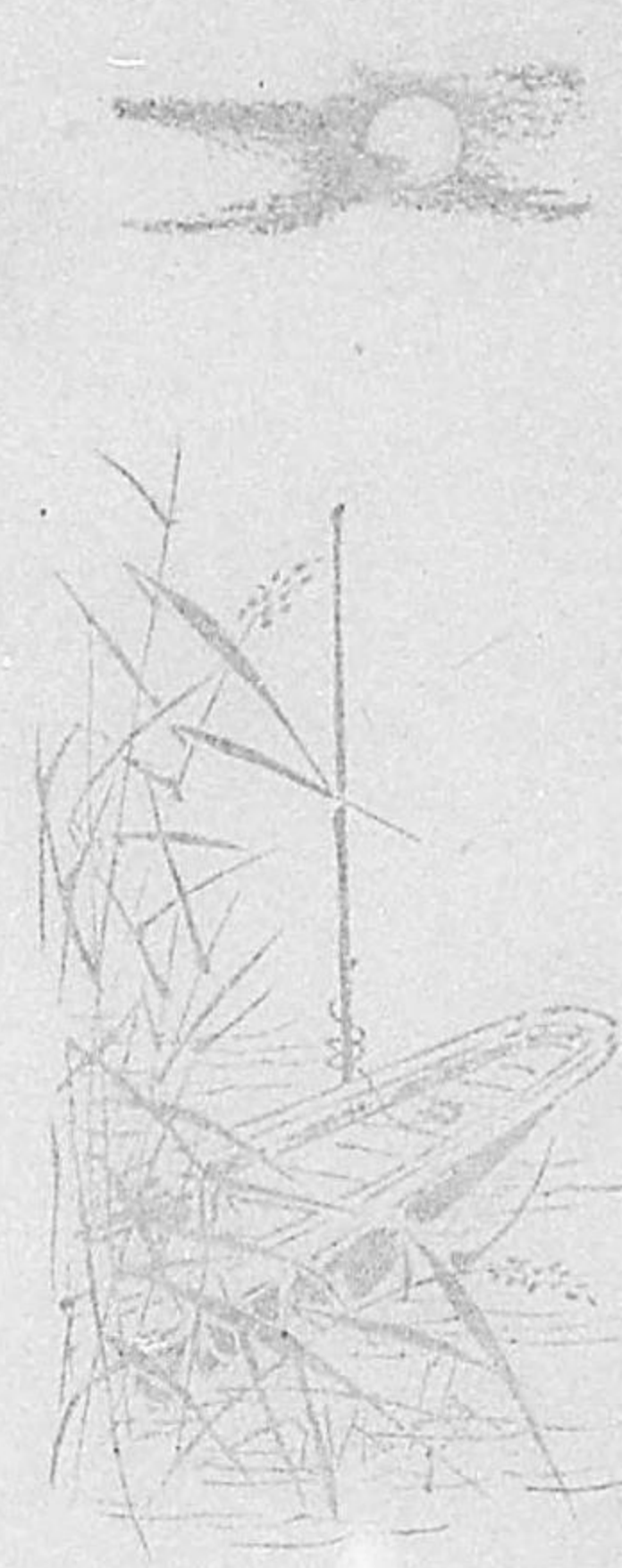






南
湖

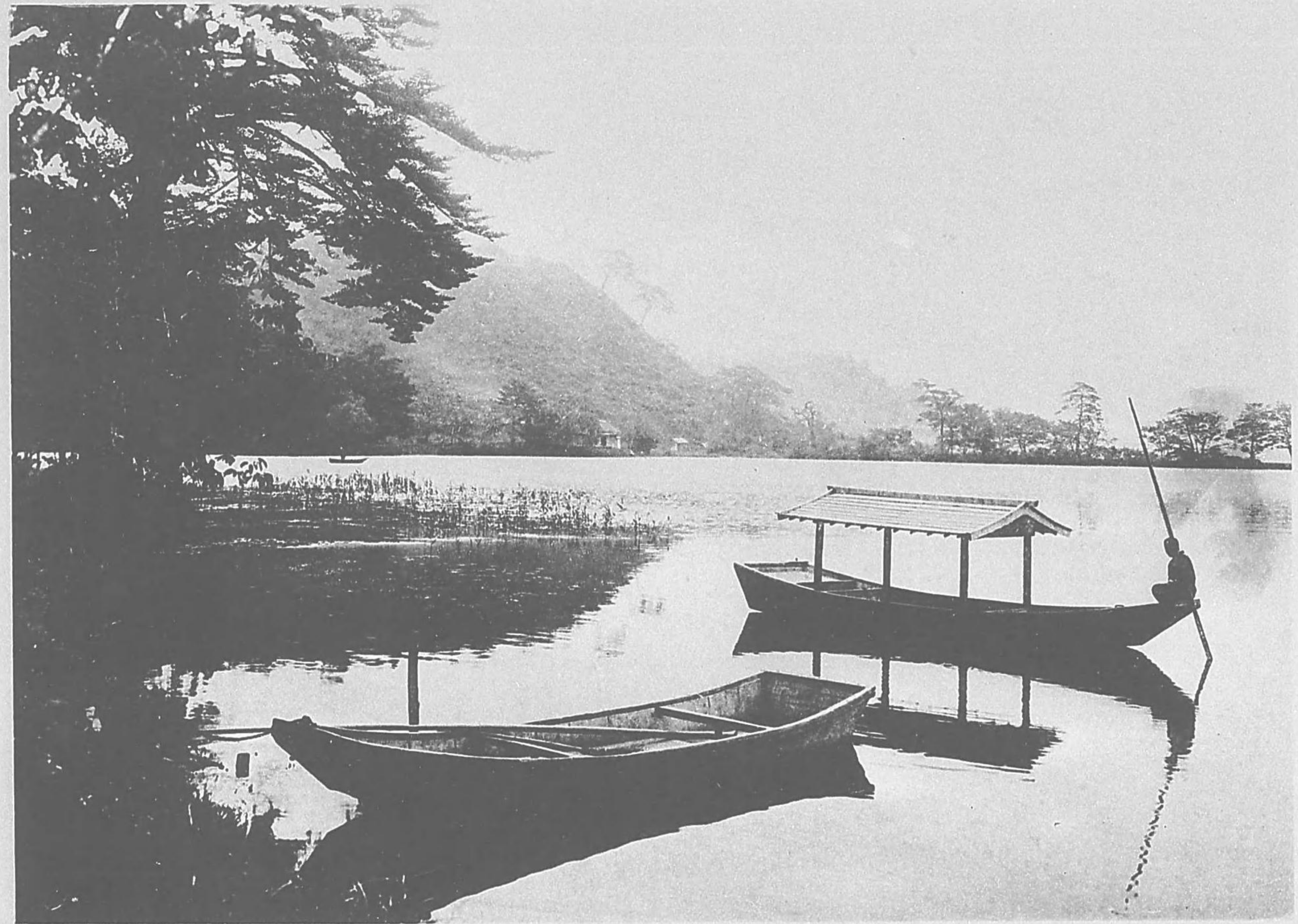
定信此湖邊に閑居樂翁と號し
自ら其十七勝を撰みて獨り天
然の美を樂しむ





松虫の里

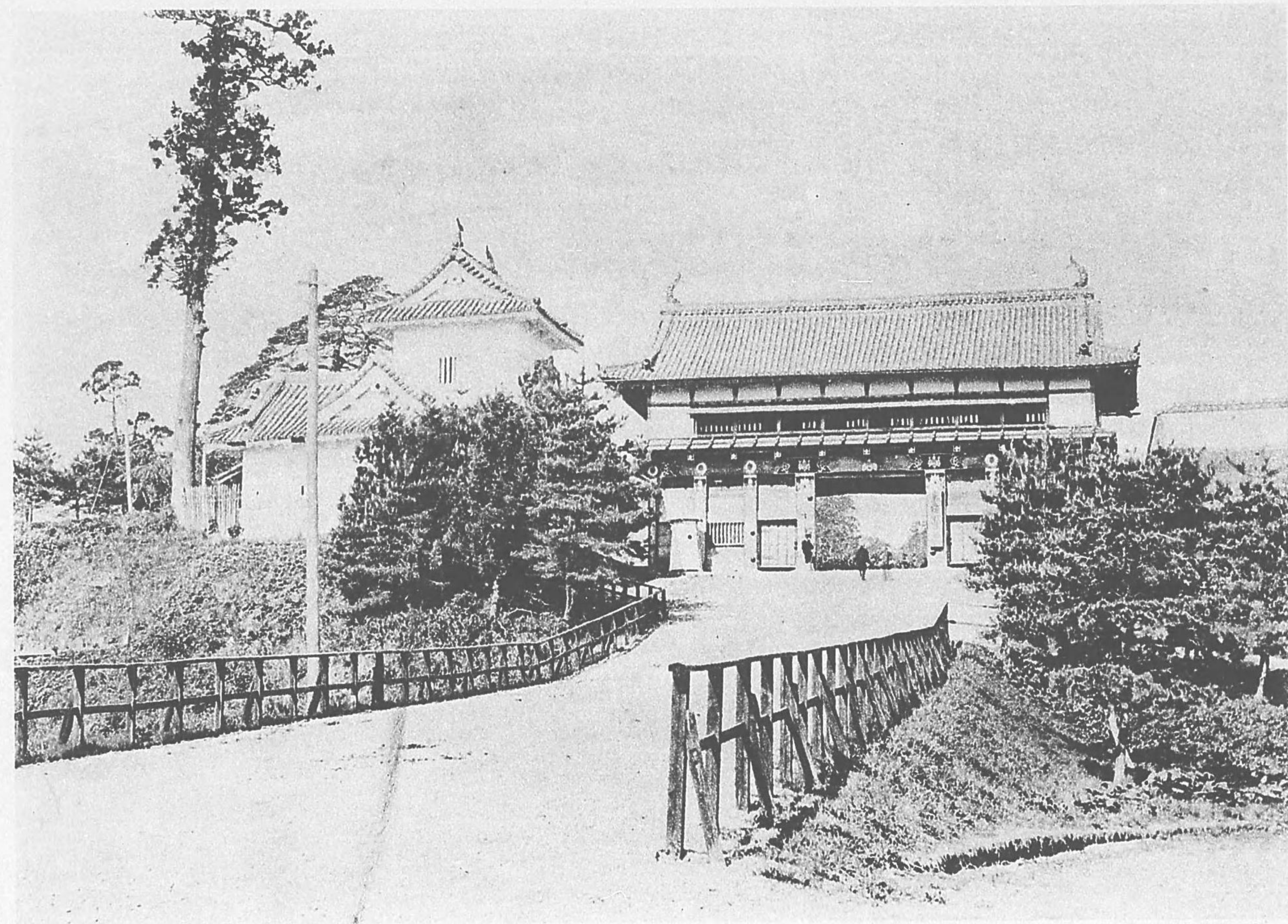
南湖十七勝の一なり水碧く松
亭たる處舟を浮べて吟懷日を
寧らす古人の雅興想ふべし





仙臺青葉城

伊達政宗の城く所廣瀬川に沿
うて要害比なし今は第二師團
屯營となる

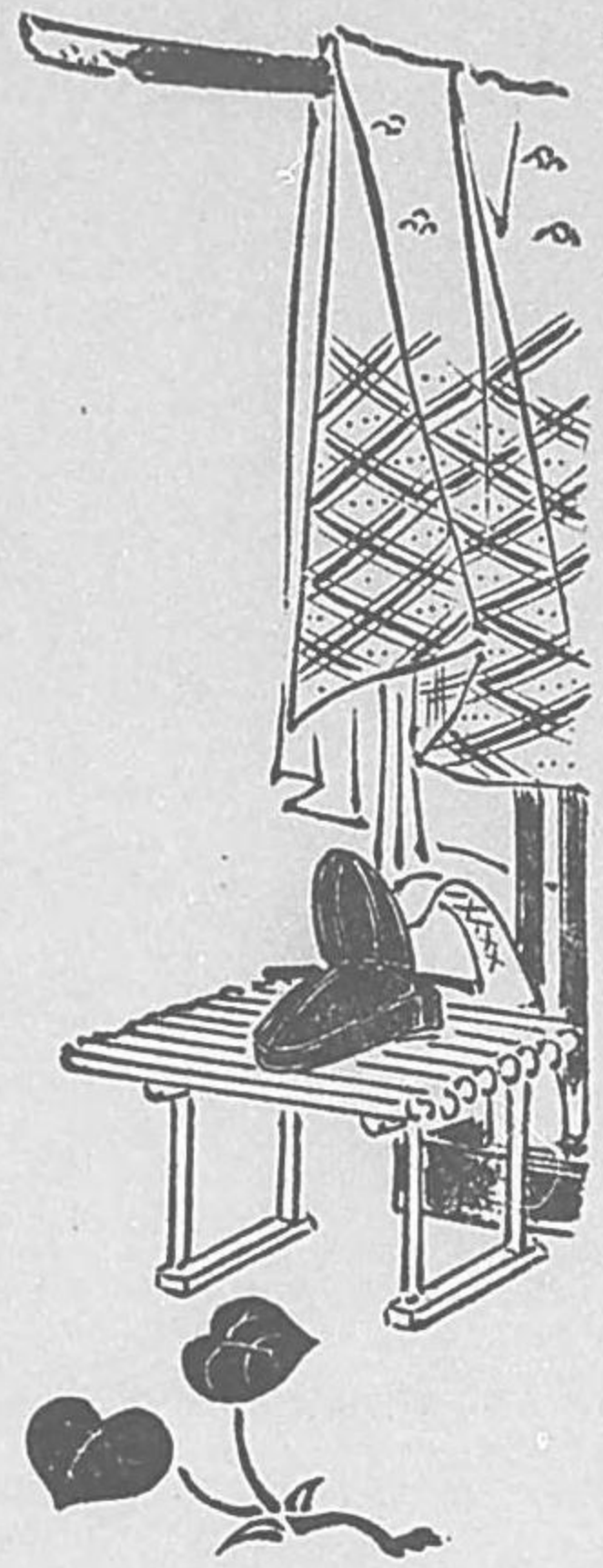




陸奥園

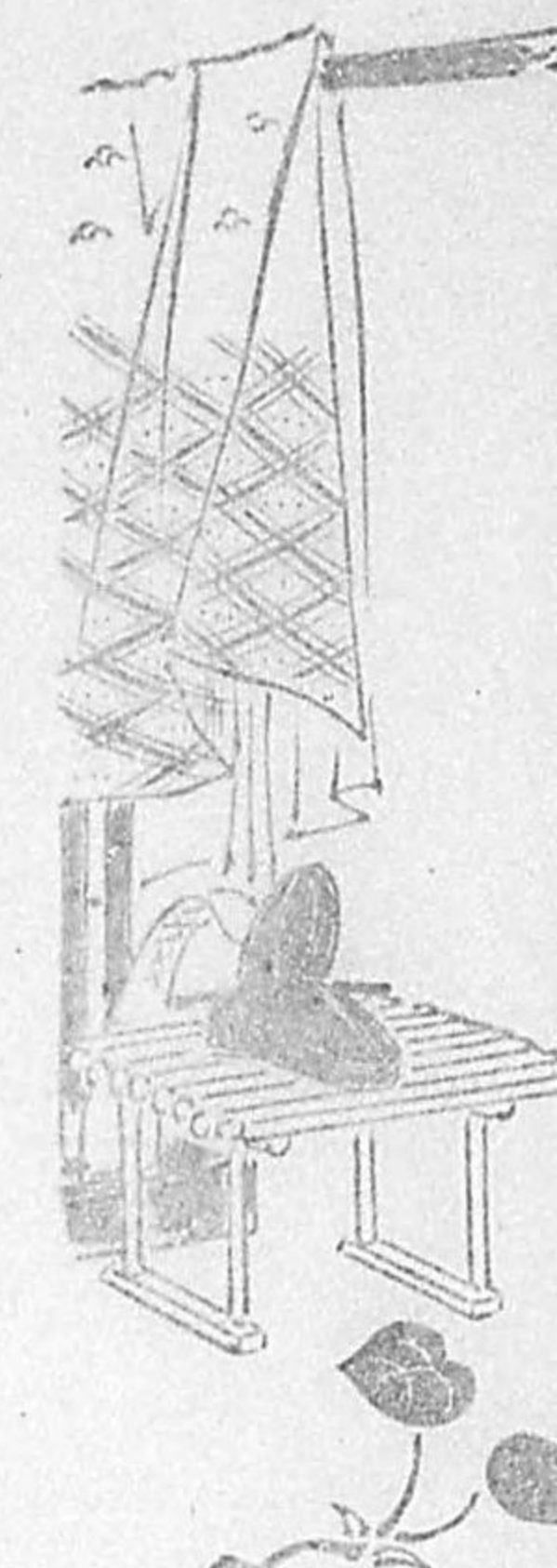
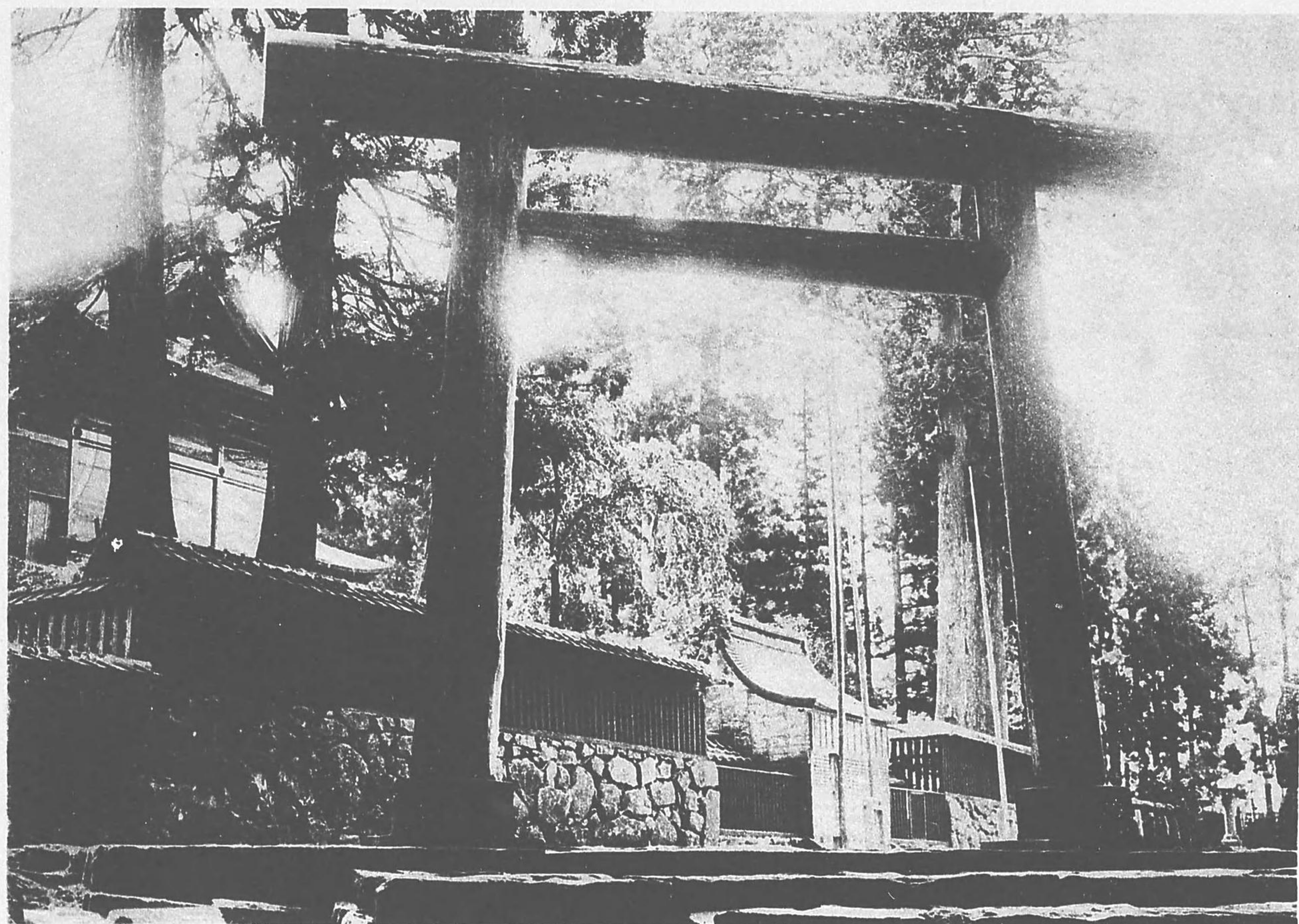
仙臺第一の割羹店にして園池
の結構観るに足る





伊達宗廟

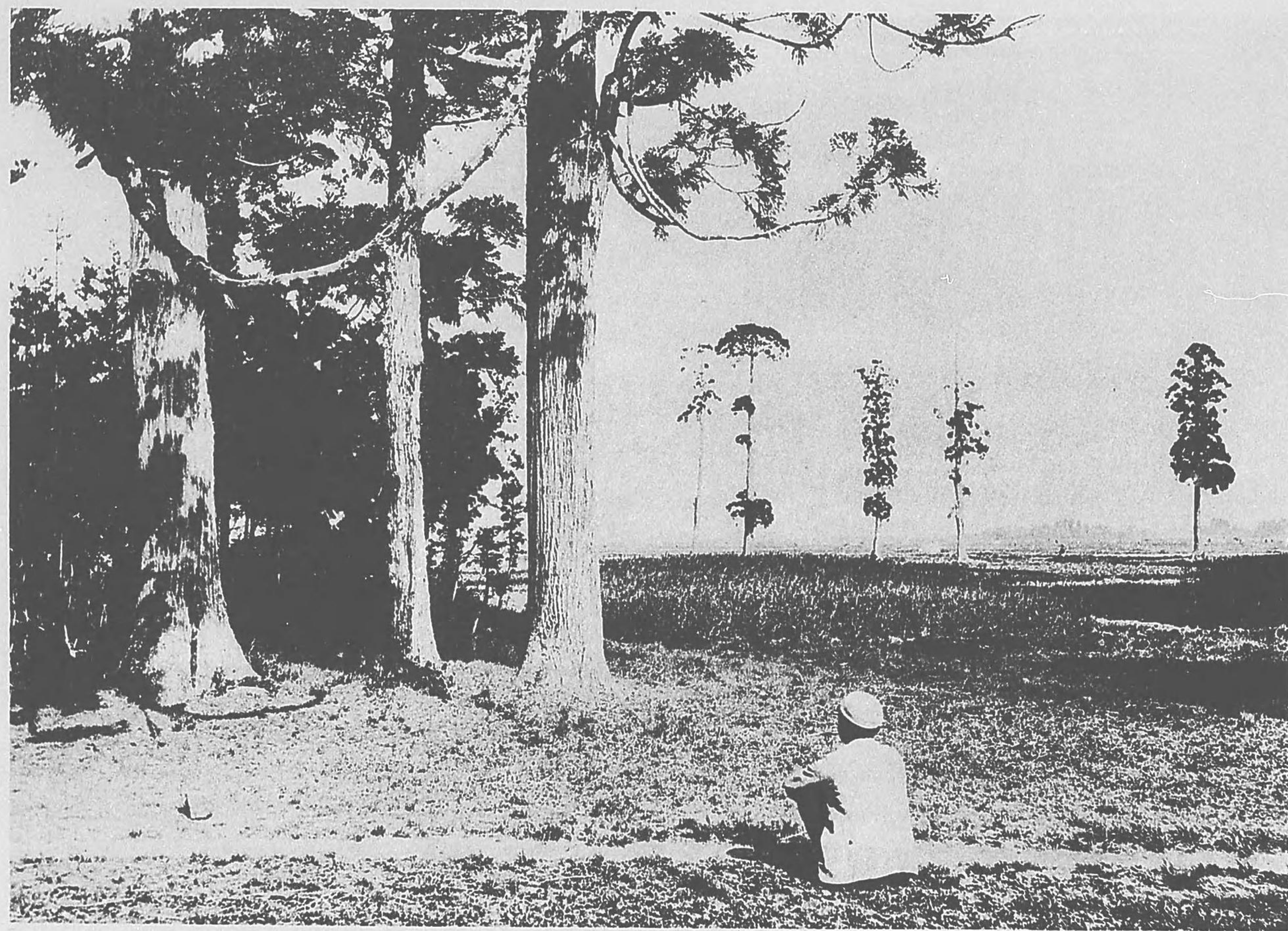
仙臺市の西端寶山にあり政宗
以下累代の墓所にして瑞寶殿
と稱す市人伊達神社といふ

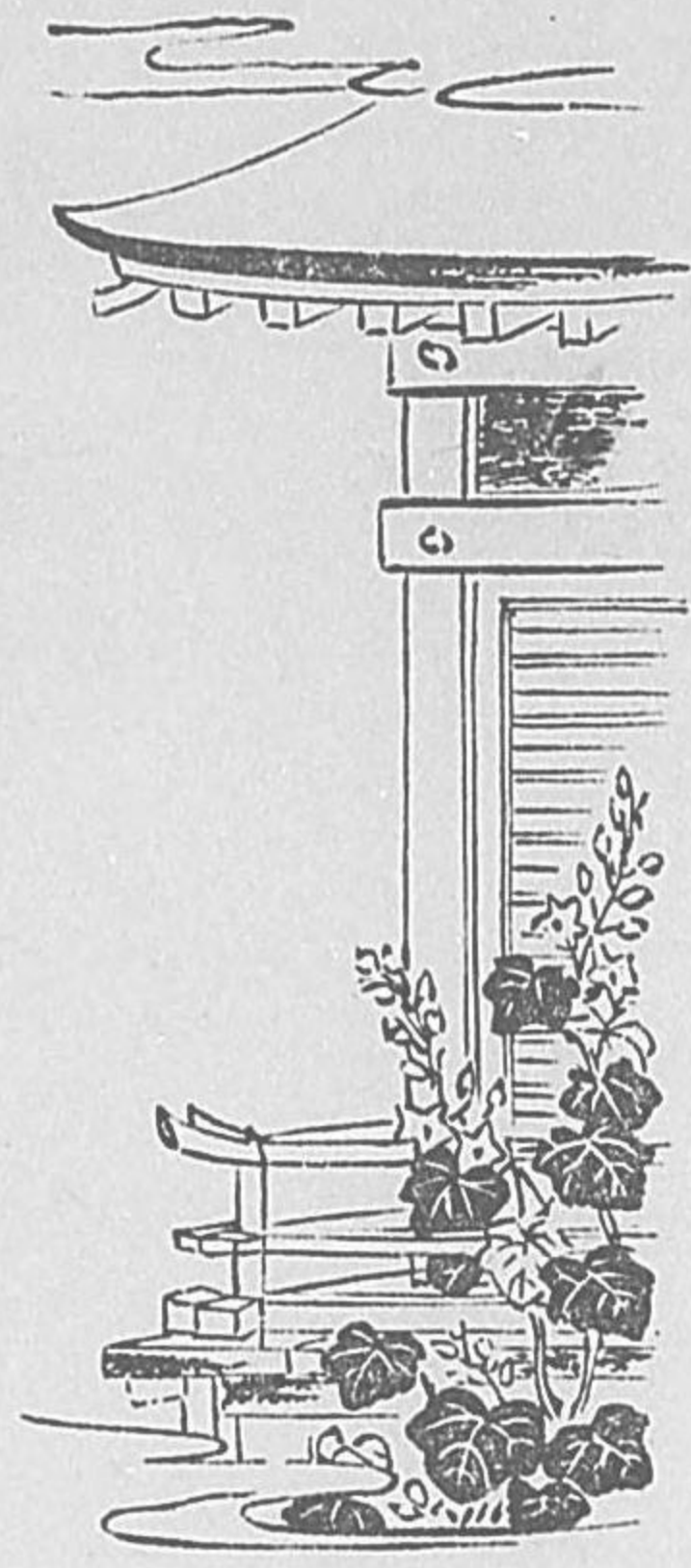




宮城野

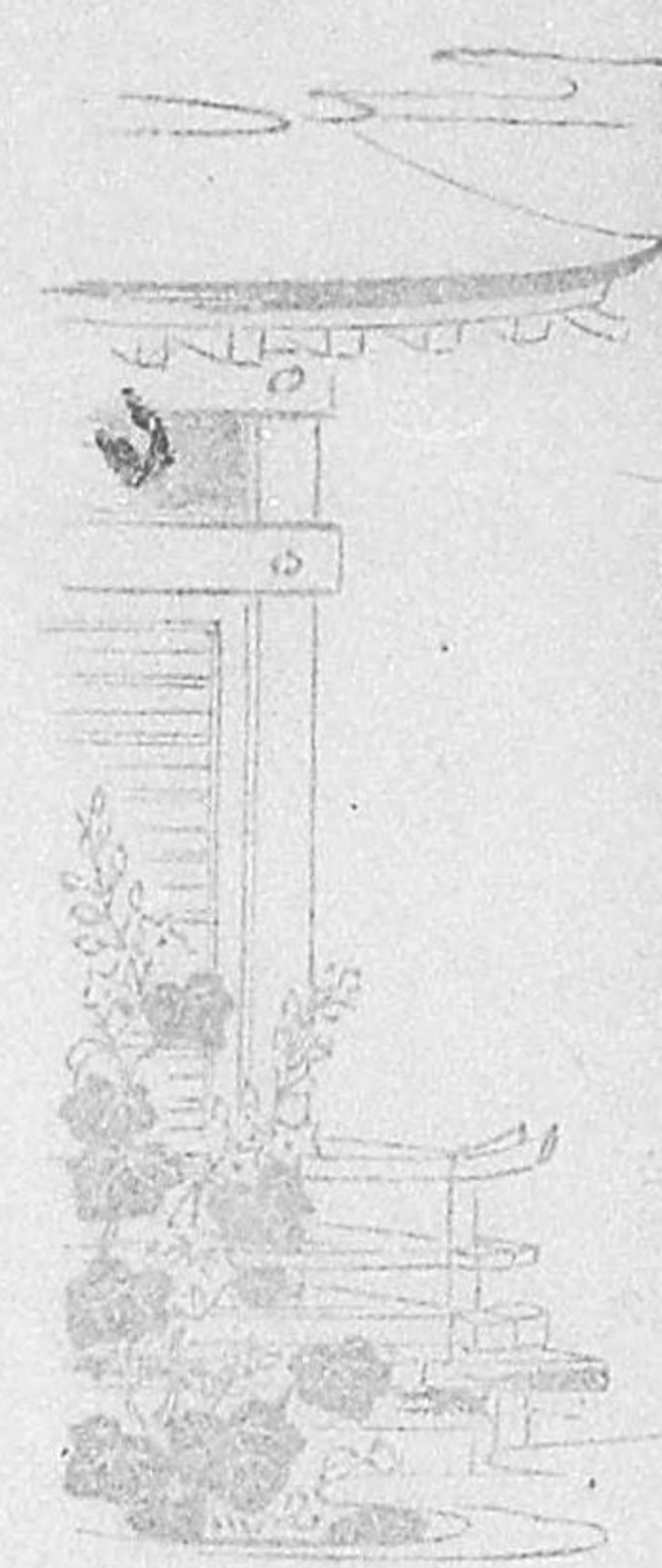
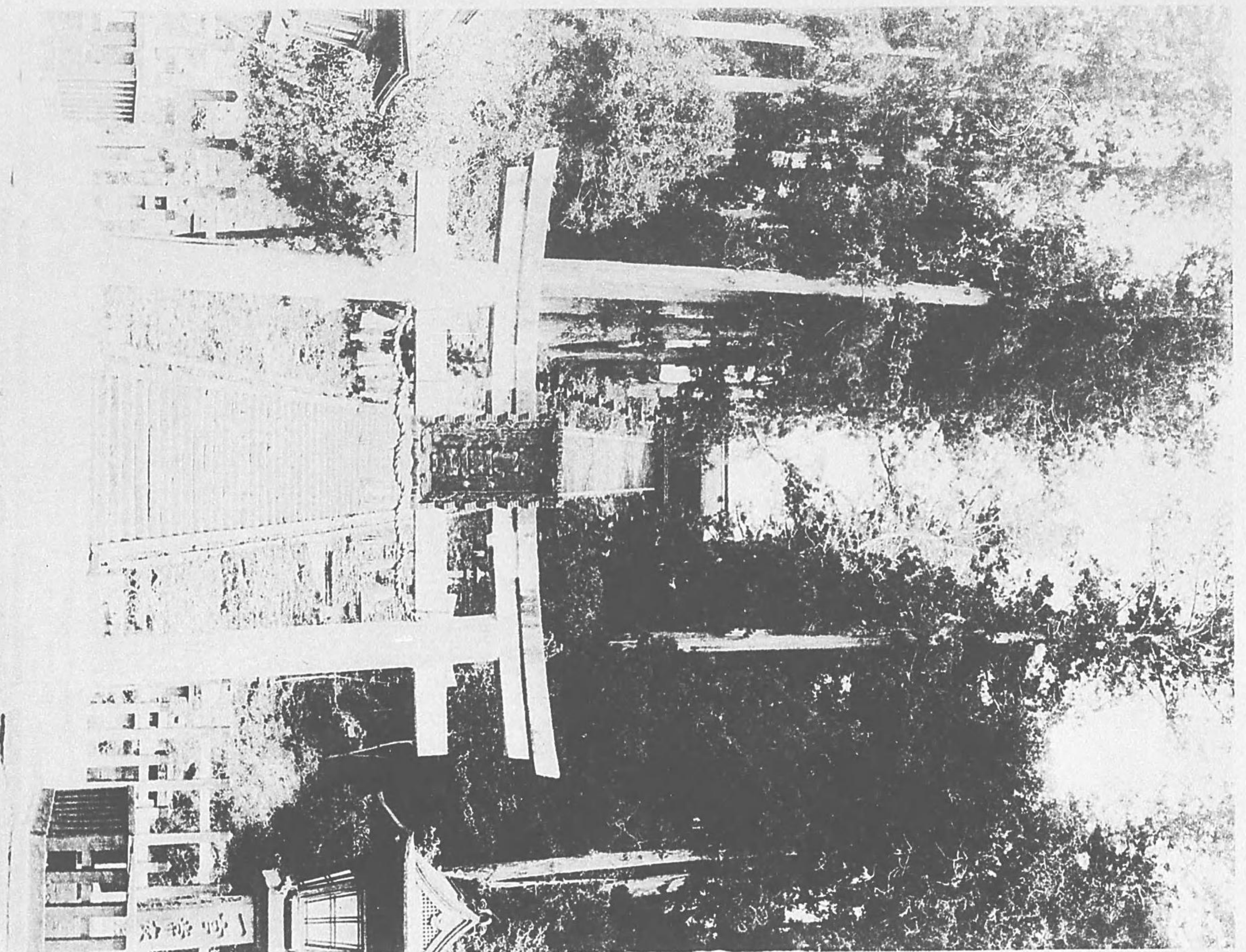
平野數十里眼界遠く蒼天に連
るもの是を宮城野さなす





鹽釜神社

本社元法蓮寺と稱して眞言宗
に屬する寺院なりしが後伊井
諾尊の御子鹽釜大明神を祀る
に至れり子安神として名高く
松島遊覽の客は爰に賽して後
島廻りをなすを順路とす

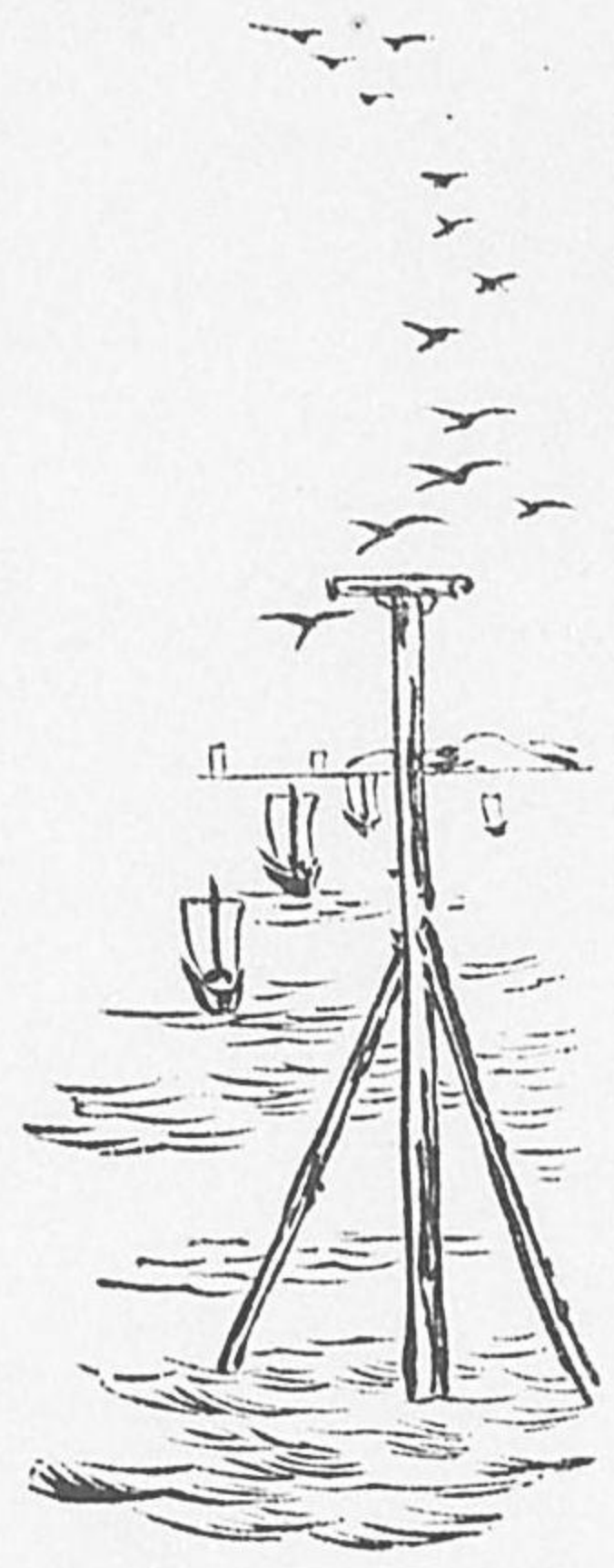




鹽釜神社四足門

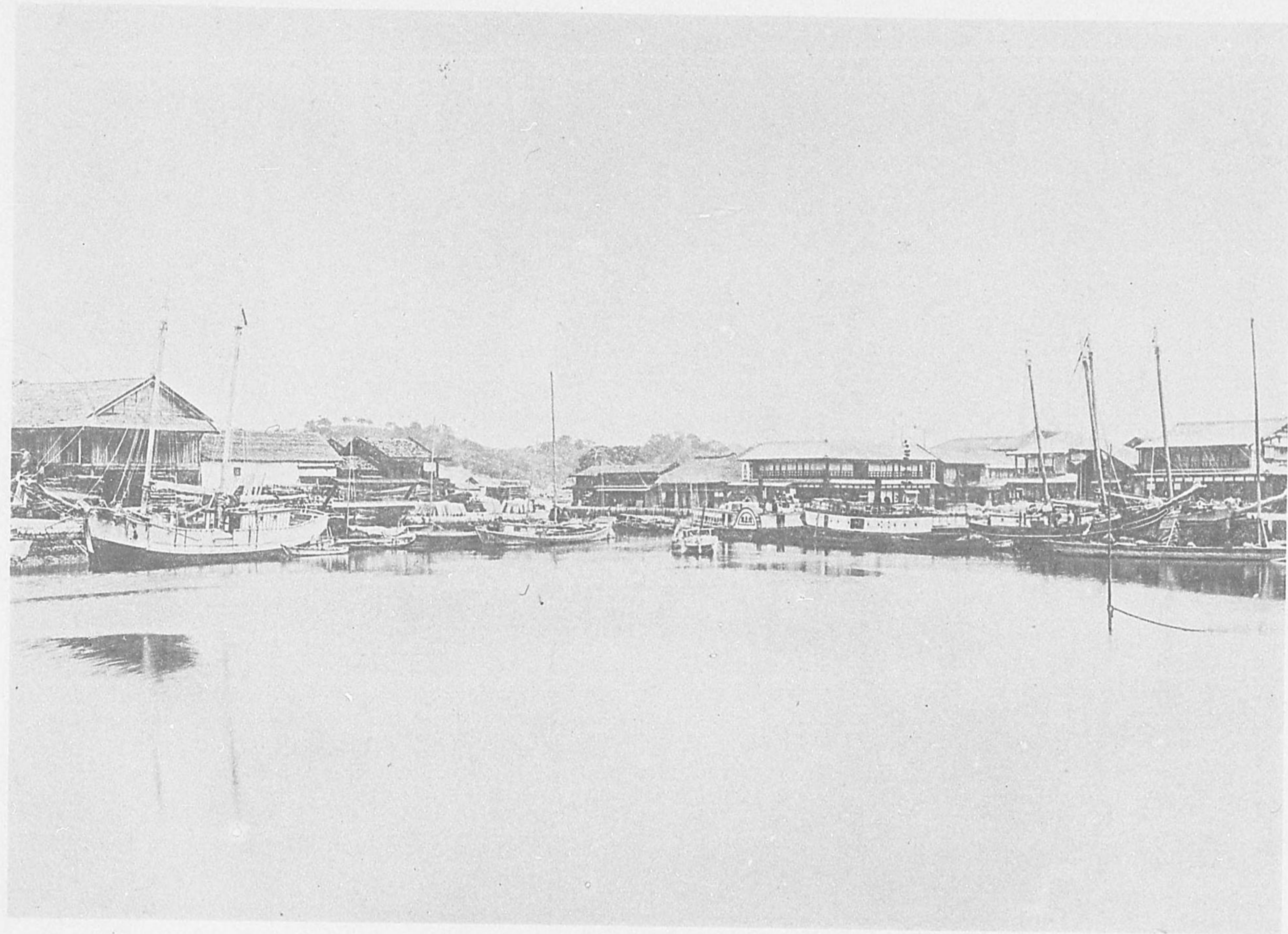
急直なる石階を登り二玉門を
經て本社に入らんとする處に
あり構造頗る奇なり





鹽釜港

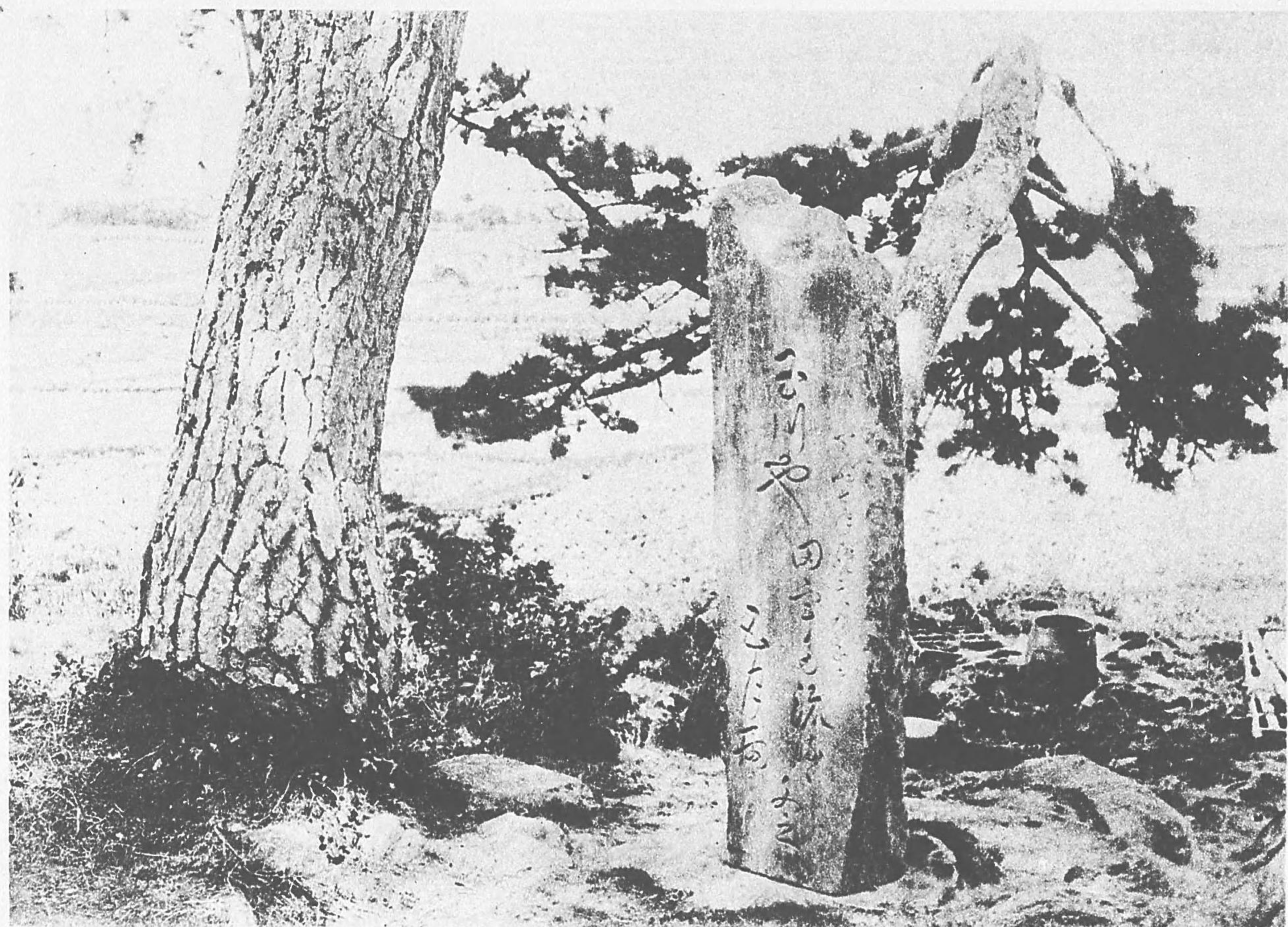
松島の青螺の間を廻りて五大堂の岸に達する所謂島廻りの客は纜を此港に解くを便とす





野田玉川

六玉川の一にして能因法師が
夕さればの吟に名高き野田の
玉川は鹽釜を發して岩切に達
する途にあり老松の下一基の
碑立てり





壺
碑

松島より一里半にして壺碑あり多賀城碑に
して多賀城は今より千二百九十九年前即紀
元千二百六十年に築かれ田村鷹東征の時之
に據る遊覽の客傍の茶店に就て老翁の案内
により城址を觀發掘の瓦片を撫して古を憶
ふべし





浮島

岩切附近にあり古昔は此邊一
帯海なりしも此丘は島なりし
こか



明治三十二年六月三十日印刷

(旅の家土産第拾八號)

明治三十二年七月十五日發行

(非賣品)

東京市赤坂區田町七丁目四番地
光村方寄留

發行兼印刷者

中尾新太郎

東京市赤坂區田町七丁目四番地

發行所

光村寫真部

東京市赤坂區田町七丁目四番地

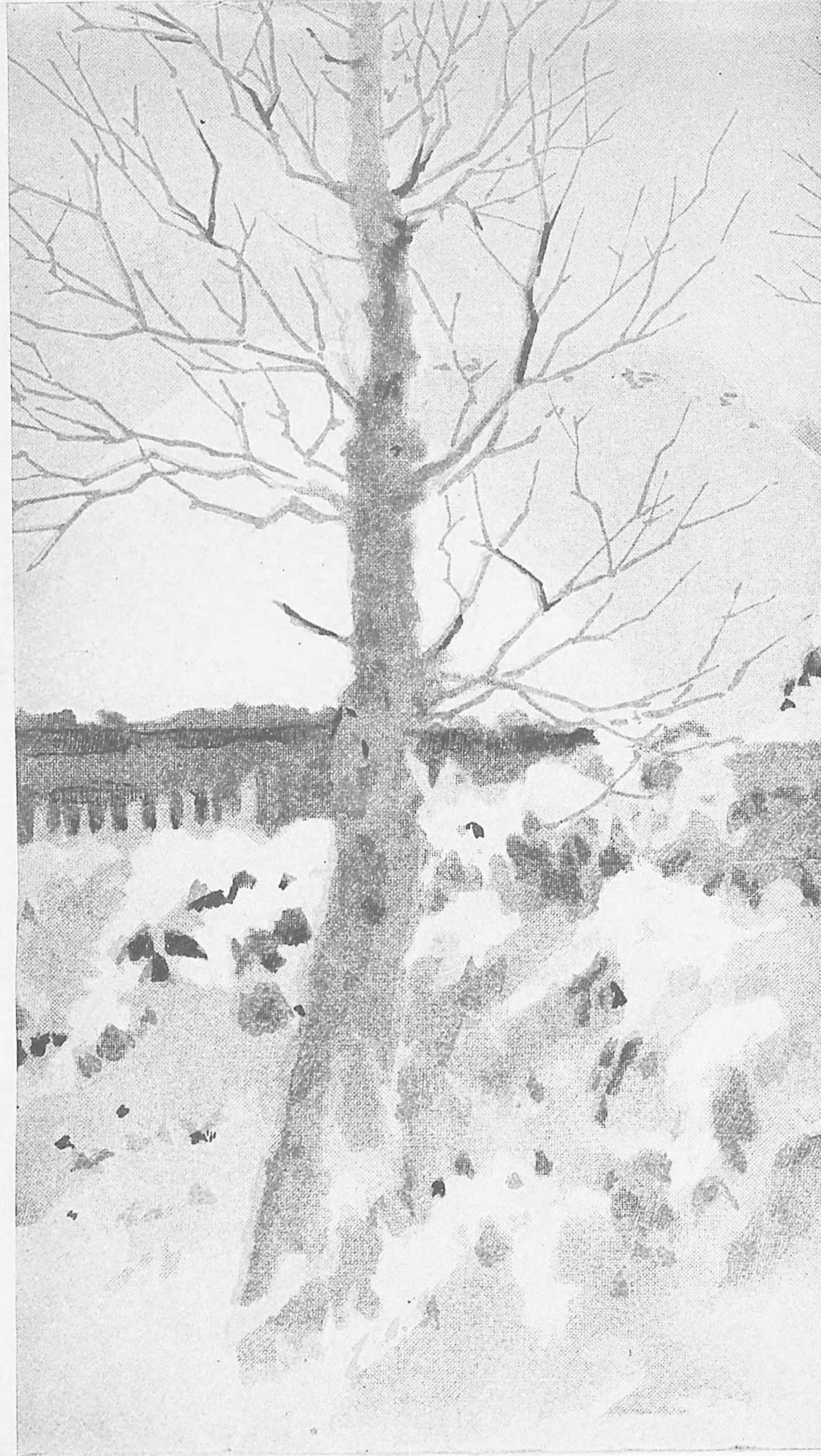
印刷所

光村寫真製版部

8
222







8
222

終